

201220039A

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の
在り方に関する研究

平成24年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成25(2013)年3月

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の
在り方に関する研究

平成24年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成25(2013)年3月

I 総括研究報告

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究

濃沼 信夫 1

II 分担研究報告

1. がん患者の経済的負担に関する研究

濃沼 信夫 15

2. 固形癌の薬物療法への分子マーカー導入と費用対効果に関する研究

石岡 千加史 18

3. 前立腺がんにおける経済的負担と費用対効果の検討

植田 健 20

4. 抗がん剤治療中の進行・再発がん患者に対する緩和医療費と治療効果の評価に関する研究

江崎 泰斗 22

5. 消化器がんの外科治療における経済的負担と費用対効果の検討

大辻 英吾 24

6. がん患者の経済的負担の在り方に関する研究

岡本 直幸 27

7. 造血系腫瘍の患者負担に関する研究

金倉 譲 30

8. 固形腫瘍に対する分子標的薬の医療経済学的評価

佐々木 康綱 33

9. 泌尿器がんの分子標的薬治療による患者負担の医療経済的解析

執印 太郎 36

10. 乳がん患者の自己負担に関する研究

武井 寛幸 38

11. 造血器腫瘍における患者負担の調査研究

直江 知樹 41

12. 分子標的治療の経済に関する研究

西岡 安彦 44

13. 消化器がん化学療法における経済的負担と費用対効果の検討 古瀬 純司	47
III 研究成果の刊行に関する一覧表	51
IV 研究成果の刊行物・別刷	55
資料	153

I . 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
総括研究報告書

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究

研究代表者 濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨

【目的】 がん対策基本法には、がん医療の均てん化と患者の意向の尊重が掲げられ、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。また、新しい「がん対策推進基本計画」では、療養する患者が安心して働き暮らせる社会の構築が謳われる。本研究では、高額で長期にわたる治療が必要な場合の患者負担の実態を把握し、負担のあり方とその軽減に向けた合理的な対策を検討する。

【方法】 大学病院、がんセンターなど全国の39施設において、各施設の倫理委員会の承認のもと、がん患者を対象に自記式調査を実施した。また、患者の同意を得て担当医から診療情報の提供を受け、患者（負担状況）と医師（診療情報）のデータリンケージにより解析を行った。

【結果】 調査の回答数は患者3,028件（回答率61.6%）、医師4,087件（同83.1%）である。医師調査（臨床経過）とのデータリンケージを行った患者1,933人の内訳は、男43%、女57%、平均年齢63.8歳、再発12%である。初回診断時からの平均経過期間は30.7ヵ月、病期はstage I 31%、II 27%、III 15%、IV 23%などである。医療保険は国保50%、組合健保21%、後期高齢者医療制度17%、協会けんぽ10%などであり、自己負担割合は3割69%、1割30%などである。回答者の62%は経済的な困りごとがあるとし、その内容で多いのは医療費、貯蓄の目減り、収入の減少である。63%が高額療養費の受領委任払い制度を利用している。病期別に平均自己負担（間接費用を含む）年額をみると、stage I 69.3万円、II 67.2万円、III 90.5万円、IV 114.2万円である。診断時、就労していた者は51%であり、がんで仕事をやめたと思われる者の割合は32%で、これを病期別にみると、stage I 24%、II 26%、III 34%、IV 41%である。

【結論】 患者の経済的負担は、がんの部位、病期などで大きく異なっており、それぞれの状況に応じた負担の軽減策、就労支援策を講じることが重要と考えられる。

研究分担者	岡本 直幸	神奈川県立がんセンター臨床
濃沼 信夫	東北大学大学院医学系研究科	研究所 がん予防・情報学部
	教授	部長
石岡千加史	東北大学加齢医学研究所	金倉 譲
	教授	大阪大学大学院医学系研究科
		血液・腫瘍内科 教授
植田 健	千葉県がんセンター	佐々木康綱
	泌尿器科 部長	昭和大学
		腫瘍内科 教授
江崎 泰斗	九州がんセンター	執印 太郎
	消化管・腫瘍内科 部長	高知大学医学部
		泌尿器科学 教授
大辻 英吾	京都府立医科大学	武井 寛幸
	消化器外科学 教授	埼玉県立がんセンター
		乳腺外科 科長兼部長

直江 知樹 名古屋大学大学院医学系研究科
血液・腫瘍内科学 教授
西岡 安彦 徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部

呼吸器内科学 教授
古瀬 純司 杏林大学医学部
内科学腫瘍内科 教授

A. 研究目的

がん対策基本法にはがん医療の均てん化と患者の意向の尊重が掲げられ、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。また、患者中心医療の要請、技術革新の進展、医療資源の制約などから、臨床的とともに経済的根拠に基づくがん医療を実践することが重要となっている。さらに、新しい「がん対策推進基本計画」では、療養する患者が安心して働き暮らせる社会の構築が謳われる。

本研究では、高額で長期にわたる治療が必要な場合の患者負担の実態を把握し、負担のあり方とその軽減に向けた合理的な対策を検討する。本年度は、患者窓口負担の実態、および病態、治療歴、治療への影響、就労の実態等を調査する。

B. 研究方法

全国の大学病院、がんセンター等 39 施設で、がん患者に家計簿や領収書を見ながら、がん医療にかかる支出額等を記入してもらう自記式調査を実施した。また、患者の同意を得て、担当医から診療情報の提供を受け、患者調査（負担状況）と医師調査（診療情報）のデータリンクージュにより解析を行った。

（倫理面への配慮）

患者を対象にした調査は東北大学、および各施設の倫理委員会の承認を得て実施した。患者回答は無記名で郵送とし、連結可能匿名化された診療情報は、患者の同意を得て担当医から提供を受けた。

C. 研究結果

調査の回答数は患者3,028件（回答率61.6%）、

医師4,087件（同83.1%）である。医師調査（臨床経過）とのデータリンクージュを行った患者1,933人（治験参加者、生活保護、難病等、公費扱いの患者は除外）を解析した。内訳は、男43%、女57%、平均年齢63.8歳、再発12%、初回診断時からの平均経過期間は30.7ヵ月である。部位は乳房37%、肺14%、前立腺12%、大腸6%、造血器5%など、病期はstage I 31%、II 27%、III 15%、IV 23%などである。過去一年間に行った治療は、手術60%、化学療法48%、放射線療法28%、分子標的治療15%などである（複数回答）。医療保険は国保50%、組合健保21%、後期高齢者医療制度17%、協会けんぽ10%など、自己負担割合は3割74%、1割25%などである。過去一年間の世帯税込み収入は100～300万円未満が32%、300～500万円未満が26%などである。

回答者の62%は経済的な困りごとがあるとし、その内容は医療費、貯蓄の目減り、収入の減少などである。30%はがん罹患によって収入が減少しており、減少割合は2割20%、3割19%、1割14%などである。経済的理由による治療への影響があったのは6%で、保険のきかない検査等が最も多く、次いで放射線治療である。

自己負担額（年間）は平均92万円で、内訳は入院28万円（該当者76%）、外来24万円（同98%）、健康食品等20万円（同36%）、民間保険料36万円（同62%）などである。償還・給付額は平均61万円で、内訳は民間保険給付金105万円（該当者49%）、高額療養費29万円（同25%）、医療費還付9万円（同33%）である。自己負担額から償還・給付額を差し引いた、患者の実質的な経済的負担は平均21万円である。民間保険は公的保険を補完するものであるが、この給付金で負担が軽減される患者が少なくない。高額療養費制度の利用内容は、受療委任払い63%、

高額医療・高額介護合算 59%、多数回該当 30% (複数回答) などである。

病期別にみると、平均自己負担額、償還・給付額は、stage I では各 69 万円、55 万円、IV では 114 万円、64 万円である。経済的な困りごとがあるとする割合は、stage I が 48%であるのに対し、IVでは78%に増加し、経済的理由による治療への影響があった割合も stage I の 3.3%に対し、IVでは 7.3%に増加する。部位別にみると、自己負担額と償還・給付額は、大腸がん (n=256) で各 126 万円、98 万円、肺がん (n=469) で各 108 万円、75 万円、乳がん (n=772) で各 66 万円、44 万円、胃がん (n=175) で各 102 万円、65 万円、前立腺がん (n=414) で各 97 万円、40 万円などである。医療保険の自己負担割合別にみると、自己負担額と償還・給付額は 3 割負担 (平均年齢 59.1 歳) で各 104 万円、73 万円、1 割負担 (同 75.5 歳) で各 59 万円、28 万円である。がんに関する困りごとがあるとした割合は、1 割負担では 52%であるのに対し、3 割負担では 63%に増加する。

診断時に就業している割合は 51% (n=2, 737) で、がんで仕事をやめたと思われる者の割合は 32%で、これを病期別にみると stage I 24%、II 26%、III 34%、IV 41%と、重症化するにつれて高くなる。がん罹患による仕事の変化については (n=907)、「やむをえない」36%、「継続しなかった」27%などである。

D. 考察

患者調査 (負担状況) と医師調査 (診療情報) のデータを突合することで、病態ごとの経済的負担の実態をより正確に把握することが可能となった。重症化するにつれ、入院、外来の自己負担額に加え、健康食品や民間療法の支出も大きくなる傾向にある。がんで、仕事をやめたと思われる者の割合も増大する。

E. 結論

がん分野の技術進歩は今後ますます加速され、患者の大きな福音となると期待されるが、

同時にごがん医療の高額化も深刻の度合いを増す。技術進歩をあまねく患者に届けるには、その経済的負担を最小化することが欠かせない。

患者の経済的負担は、がんの部位、病期などで大きく異なっており、それぞれの状況に応じた負担の軽減策、就労支援策を講じることが重要と考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Koinuma N: The burden of cancer in Japan. Proceedings, American Association for Cancer Research Annual Meeting. 1078, 2012.
- 2) Koinuma N: Economic benefit of Helicobacter pylori screening and eradication treatment for the prevention of gastric cancer. Program and proceedings frontiers in cancer prevention research conference, American Association for Cancer Research. 98-99, 2012.
- 3) Koinuma N: The estimated cost of cancer in Japan, <http://eche2012.abstractsubmit.org/presentations/3286/>, 9th European Conference on Health Economics. 2012.
- 4) Koinuma N, Ito M: The economic burden of cancer patients by clinical stage, patient copayment and length of hospital stay. Proceedings, 71st Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 538, 2012.
- 5) Koinuma N: The influence of out-of-pocket expenses to treatment choices. Abstract book, 24th International Congress on Anti-cancer Treatment: 325, 2013.
- 6) Koinuma N: Proposal for the Breakdown

- of Increased Cancer Healthcare Cost and Its Improvement. *Jpn J ClinOncol*. 2013. doi:10.1093/jjco/hyt015.
- 7) 濃沼信夫：肺がん治療と医療費。日医雑誌（印刷中）。2013.
 - 8) Kato S, Andoh H, Gamoh M, Yamaguchi T, Murakawa Y, Shimodaira H, Takahashi S, Mori T, Ohori H, Maeda S, Suzuki T, Kato S, Akiyama S, Sasaki Y, Yoshioka T, Ishioka C, (T-CORE) : On behalf of Tohoku Clinical Oncology Research and Education : Safety Verification Trials of mFOLFIRI and Sequential IRIS plus Bevacizumab as First- or Second-Line Therapies for Metastatic Colorectal Cancer in Japanese Patients. *Oncology*. 83 : 101-7, 2012.
 - 9) Shiono M, Shimodaira H, Watanabe M, Takase K, Ito K, Miura K, Takami Y, Akiyama S, Kakudo Y, Takahashi S, Takahashi M, Ishioka C : Multidisciplinary approach to a case of Lynch syndrome with colorectal, ovarian, and metastatic liver carcinomas. *IntCancConf J*. 1 : 125-137, 2012.
 - 10) 秋山聖子、佐竹宣明、石岡千加史 : 分子標的薬-がんから他疾患までの治癒をめざして- II 基礎研究 分子標的薬の作用機序・薬理作用／がん関連標的分子・標的経路 その他の受容体型チロシンキナーゼ (c-kit など) . 日本臨牀. 70 : 36-40, 2012.
 - 11) 石岡千加史 : 骨転移の治療-薬物療法を中心に-. 癌と化学療法. 39 : 1169-1173, 2012.
 - 12) 秋山聖子、佐竹宣明、石岡千加史 : 災害後の抗がん剤治療. 最新医学. 6 (増刊号 67) : 1577-1586, 2012.
 - 13) 森隆弘、石岡千加史 : 分子標的薬の副作用のトピックス、展望. 臨床外科. 67 : 862-868, 2012.
 - 14) 丹内智美、植田健、浜野公明、李芳菁、滑川剛史、今村有佑、齋藤允孝、小林将行、柳沢由香里、高瀬峰子、小丸淳、深沢賢 : 前立腺がんの地域連携クリティカルパスにおけるバリエーション分析. 泌尿器外科. 26(1) : 77-81, 2013.
 - 15) 江崎泰斗 : 末梢神経障害の医学的観点からの解説. *Oncology Nursing (中外製薬)*. 3 : 14-16, 2012.
 - 16) Yoshino T, Mizunuma N, Yamazaki K, Nishina T, Komatsu Y, Baba H, Tsuji A, Yamaguchi K, Muro K, Sugimoto N, Tsuji Y, Moriwaki T, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Ohtsu A : TAS-102 monotherapy for pretreated metastatic colorectal cancer : a double-blind, randomised, placebo-controlled phase 2 trial. *Lancet Oncology*. 10 : 993-1001, 2012.
 - 17) 在田修二、牧山明資、江崎泰斗 : HER2 陽性胃がんに対する trastuzumab の臨床上のインパクトと進行中の臨床試験. 腫瘍内科. 10(5) : 425-430, 2012.
 - 18) Kusaba H, Esaki T, Kishimoto J, Uchino K, Arita S, Kumagai H, Mitsugi K, Akashi K, Baba E : Phase I study of bevacizumab combined with irinotecan and S-1 as second-line chemotherapy in patients with advanced colorectal cancer. *Cancer ChemotherPharmacol*. 71(1) : 29-34, 2012.
 - 19) Ichikawa D, Komatsu S, Okamoto K, Shiozaki A, Fujiwara H, Otsuji E : Esophagogastrectomy using a circular stapler in laparoscopy-assisted proximal gastrectomy with an incision in the left abdomen. *Langenbecks Arch Surg*. 397(1) : 57-62, 2012.
 - 20) Komatsu S, Ichikawa D, Okamoto K, Ikoma D, Tsujiura M, Shiozaki A, Fujiwara H, Murayama Y, Kuriu Y, Ikoma H, Nakanishi M, Ochiai T, Kokuba Y, Otsuji E : Difference of the lymphatic distribution and surgical outcomes between remnant gastric cancers and

- primary proximal gastric cancers. *J Gastrointest Surg.* 16(3): 503-508, 2012.
- 21) Nakanishi M, Kokuba Y, Murayama Y, Komatsu S, Shiozaki A, Kuriu Y, Ikoma H, Ichikawa D, Fujiwara H, Okamoto K, Ochiai T, Otsuji E: A new approach to laparoscopic lymph node excision in cases of transverse colon cancer. *Digestion.* 85(2) : 121-125, 2012.
- 22) Shiozaki A, Fujiwara H, Murayama Y, Komatsu S, Kuriu Y, Ikoma H, Nakanishi M, Ichikawa D, Okamoto K, Ochiai T, Kokuba Y, Otsuji E: Posterior mediastinal lymph node dissection using the pneumomediastinum method for esophageal cancer. *Esophagus.* 9(1) : 58-64, 2012.
- 23) Ochiai T, Ikoma H, Murayama Y, Shiozaki A, Komatsu S, Kuriu Y, Nakanishi M, Ichikawa D, Fujiwara H, Okamoto K, Kokuba Y, Otsuji E: Factors resulting in 5-year disease-free survival after resection of hepatocellular carcinoma. *Anticancer Research.* 32(4) : 1417-1422, 2012.
- 24) 市川大輔、大辻英吾: 1. 食道・胃疾患 3. 胃癌. *消化器外科学レビュー2012—最新主要文献と解説—*. 総合医学社. 東京. 15-20, 2012.
- 25) 岡本直幸: がん登録の来し方～歴史を知る、*J A C R Monograph.* 17:1-5, 2012.
- 26) 片山佳代子、夏井佐代子、岡本直幸: 神奈川県内における乳がん罹患の地域集積性の検討、*J A C R Monograph.* 17:51-52, 2012.
- 27) Ohe M, Yokose T, Sakuma Y, Miyagi Y, Okamoto N, Osanai S, Hasegawa C, Nakayama H, Kameda Y, Yamada K, Isobe T: Stromal micropapillary component as a novel unfavorable prognostic factor of lung adenocarcinoma. *Diagnostic Pathology.* 7:3-11, 2012.
- 28) Okamoto N: Use of “AminoIndex Technology” for cancer screening. *Ningen Dock.* 26 : 911-922, 2012.
- 29) 片山佳代子、助友裕子、黒澤美智子、横山和仁、岡本直幸、稲葉裕: 都道府県別乳がん死亡率と教育系ファシリティとの関連 - ソーシャル・キャピタルの視点から -. *厚生指標.* 59(1):26-34, 2012.
- 30) Wada N, Zaki MA, Kohara M, Ogawa H, Sugiyama H, Nomura S, Matsumura I, Hino M, Kanakura Y, Inagaki H, Morii E, Aozasa K: Diffuse large B cell lymphoma with an interfollicular pattern of proliferation shows a favourable prognosis: a study of the Osaka Lymphoma Study Group. *Histopathology.* 60(6) : 924-932, 2012.
- 31) Satoh Y, Matsumura I, Tanaka H, Harada H, Harada Y, Matsui K, Shibata M, Mizuki M, Kanakura Y: C-terminal mutation of RUNX1 attenuates the DNA-damage repair response in hematopoietic stem cells. *Leukemia.* 26:303-311, 2012.
- 32) Yokota T, Oritani K, Butz S, Ewers S, Vestweber D, Kanakura Y: Markers for Hematopoietic Stem Cells: Histories and Recent Achievements. *Advances in Hematopoietic Stem Cell Research.* Pelayo R (Ed.). Intech Open Access Publisher. Croatia. 77-88, 2012.
- 33) Matsui K, Ezoe S, Oritani K, Shibata M, Tokunaga M, Fujita N, Tanimura A, Sudo T, Tanaka H, McBurney MW, Matsumura I, Kanakura Y: NAD-dependent histone deacetylase, SIRT1, plays essential roles in the maintenance of hematopoietic stem cells. *BiochemBiophys Res Commun.* 418:811-817, 2012.
- 34) Sudo T, Yokota T, Oritani K, Satoh Y, Sugiyama T, Ishida T, Shibayama H, Ezoe S, Fujita N, Tanaka H, Maeda T, Nagasawa T, Kanakura Y: The endothelial antigen

- ESAM monitors hematopoietic stem cell status between quiescence and self-renewal. *J Immunol.* 189:200-210, 2012.
- 35) Nakazawa T, Tadokoro S, Kamae T, Kiyomizu K, Kashiwagi H, Honda S, Kanakura Y, Tomiyama Y: Agonist stimulation, talin-1, and kindlin-3 are crucial for α (IIb) β (3) activation in a human megakaryoblastic cell line, CMK. *ExpHematol.* 41(1) : 79-90, 2013.
- 36) 水木満佐央、金倉譲: Castleman 病. 多発性骨髄腫治療マニュアル(木崎昌弘編). 南江堂. 東京. 293-299, 2012.
- 37) 水木満佐央、金倉譲: 慢性骨髄性白血病. 内科学. 門脇孝、永井良三編. 西村書店. 東京. 1389-1394, 2012.
- 38) Fujita K, Sugiyama M, Akiyama Y, Hioki K, Kunishima M, Nishi K, Kobayashi M, Kawai K, Sasaki Y: N-Isopropyl-p-iodoamphetamine hydrochloride (IMP) is predominantly metabolized by CYP2C19. *Drug MetabDispos.* 40:843-846, 2012.
- 39) Sunakawa Y, Fujita K, Ichikawa W, Ishida H, Yamashita K, Araki K, Miwa K, Kawara K, Akiyama Y, Yamamoto W, Nagashima F, Saji S, Sasaki Y: A phase I study of infusional 5-fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin, and irinotecan (FOLFOXIRI) in Japanese patients with advanced colorectal cancer who harbor UGT1A1*1/*1, *1/*6, or *1/*28. *Oncology.* 82:242-248, 2012.
- 40) Kanno H, Kuratsu J, Nishikawa R, Mishima K, Natsume A, Wakabayashi T, Houkin K, Terasaka S, Shuin T: Clinical features of patients bearing central nervous system hemangioblastoma in von Hippel-Lindau disease. *ActaNeurochir.* 155 : 1-7, 2013.
- 41) 福原秀雄、執印太郎、他: 根治的前立腺全摘除術の外科的切除断端における残存癌検出を目指した術中光学診断の有有用性の検討. *Japanese Journal of Endourology.* 25 : 173-178, 2012.
- 42) 執印太郎、他: von Hippel-Lindau 病全国疫学調査における腎癌の臨床的解析. *日本泌尿器科学会雑誌.* 103 : 552-556, 2012.
- 43) 執印太郎、他: 本邦 von Hippel-Lindau 病に伴う褐色細胞腫の特徴 全国疫学調査とその解析結果. *日本泌尿器科学会雑誌.* 103 : 557-561, 2012
- 44) Takeuchi H, Takei H, Futsuhara K, Yoshida T, Kojima M, Kai T, Tabei T: A multicenter prospective study to evaluate bone fracture related to adjuvant anastrozole in Japanese postmenopausal women with breast cancer: two-year interim analysis of Saitama Breast Cancer Clinical Study Group (SBCCSG-06). *Int J ClinOncol.* 2013 Jan 12. [Epub ahead of print]
- 45) Aihara T, Tanaka S, Sagara Y, Iwata H, Hozumi Y, Takei H, Yamaguchi H, Ishitobi M, Egawa C: Incidence of contralateral breast cancer in Japanese patients with unilateral minimum-risk primary breast cancer, and the benefits of endocrine therapy and radiotherapy. *Breast Cancer.* 2012 Oct 4. [Epub ahead of print]
- 46) Takagi K, Moriya T, Kurosumi M, Oka K, Miki Y, Ebata A, Toshima T, Tsunekawa S, Takei H, Hirakawa H, Ishida T, Hayashi SI, Kurebayashi J, Sasano H, Suzuki T: Intratumoral estrogen concentration and expression of estrogen-induced genes in male breast carcinoma: comparison with female breast carcinoma. *Horm Cancer.* 4 : 1-11, 2013.
- 47) Gohn T, Seino Y, Hanamura T, Niwa T, Matsumoto M, Yaegashi N, Oba H, Kurosumi M, Takei H, Yamaguchi Y, Hayashi S: Individual transcriptional activity of estrogen receptors in primary breast

- cancer and its clinical significance. *Cancer Med.* 1 : 328-37, 2012.
- 48) Hayashi Y, Takei H, Nozu S, Tochigi Y, Ichikawa A, Kobayashi N, Kurosumi M, Inoue K, Yoshida T, Nagai SE, Oba H, Tabei T, Horiguchi J, Takeyoshi I : Complete response of MRI after neoadjuvant chemotherapy predicts pathological tumor responses differently for molecular subtypes of breast cancer. *OncolLett.* 5 : 83-89, 2013.
- 49) Takei H, Yoshida T, Kurosumi M, Inoue K, Matsumoto H, Hayashi Y, Higuchi T, Uchida S, Ninomiya J, Kubo K, Oba H, Nagai S, Tabei T : Sentinel lymph node biopsy after neoadjuvant chemotherapy predicts pathological axillary lymph node status in breast cancer patients with clinically positive axillary lymph nodes at presentation. *Int J ClinOncol.* 2012 May 16. [Epub ahead of print]
- 50) 武井寛幸 : 第3章薬物療法 3.術前ホルモン療法の現状と展望. 園尾博司(監修)、福田護、池田正、佐伯俊昭、鹿間直人(編). *これからの乳癌診療 2012-2013*. 金原出版株式会社. 東京. 70-80, 2012.
- 51) Usuki K, Tojo A, Maeda Y, Kobayashi Y, Matsuda A, Ohyashiki K, Nakaseko C, Kawaguchi T, Tanaka H, Miyamura K, Miyazaki Y, Okamoto S, Oritani K, Okada M, Usui N, Nagai T, Amagasaki T, Wanajo A, Naoe T : Efficacy and safety of nilotinib in Japanese patients with imatinib-resistant or -intolerant Ph+ CML or relapsed/refractory Ph+ ALL: a 36-month analysis of a phase I and II study. *Int JHematol.* 95(4) : 409-19, 2012.
- 52) Ohnishi K, Nakaseko C, Takeuchi J, Fujisawa S, Nagai T, Yamazaki H, Tauchi T, Imai K, Mori N, Yagasaki F, Maeda Y, Usui N, Miyazaki Y, Miyamura K, Kiyoi H, Ohtake S, Naoe T : Japan Adult Leukemia Study Group Long-term outcome following imatinib therapy for chronic myelogenous leukemia, with assessment of dosage and blood levels: the JALSG CML202 study. 103(6) : 1071-8, 2012.
- 53) Minami Y, Abe A, Minami M, Kitamura K, Hiraga J, Mizuno S, Yamamoto K, Sawa M, Inagaki Y, Miyamura K, Naoe T : Retention of CD34+ CML stem/progenitor cells during imatinib treatment and rapid decline after treatment with second-generation BCR-ABL inhibitors. *Leukemia.* 26(9) : 2142-3, 2012.
- 54) Mizuta S, Matsuo K, Maeda T, Yujiri T, Hatta Y, Kimura Y, Ueda Y, Kanamori H, Usui N, Akiyama H, Takada S, Yokota A, Takatsuka Y, Tamaki S, Imai K, Moriuchi Y, Miyazaki Y, Ohtake S, Ohnishi K, Naoe T : Prognostic factors influencing clinical outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation following imatinib-based therapy in BCR-ABL-positive ALL. *Blood Cancer J.* 2(5) : e72, 2012.
- 55) Naoe T : Guest editorial: introducing progress in hematology in this issue. *IntJ Hematol.* 96(2) : 151-2, 2012.
- 56) Naoe T, Kiyoi H : Genen mutations of acute myeloid leukemia in the genome era. *Int J Hematol.* 2013 [in press]
- 57) Gabr AG, Nishioka Y, et al. : Erlotinib prevents experimental metastases of human small cell lung cancer cells with no epidermal growth factor receptor expression. *ClinExp Metastasis.* 29(3) : 207-216, 2012.
- 58) Dat LT, Nishioka Y, et al. : Identification of genes potentially involved in bone metastasis by genome-wide gene expression profile analysis of non-small cell lung cancer in mice. *Int J Oncol.* 40(5) : 1455-1469,

- 2012.
- 59) Van TT, Nishioka Y, et al. : SU6668, a multiple tyrosine kinase inhibitor, inhibits progression of human malignant pleural mesothelioma in an orthotopic model. *Respirology*. 17(6): 984-990, 2012.
- 60) Nishioka Y: Malignant pleural effusion: further translational research is crucial. *Transl Lung Cancer Res*. 1(3):167-169, 2012.
- 61) Kuramoto T, Nishioka Y, et al. : Dll4-Fc, an inhibitor of Dll4-Notch signaling, suppresses liver metastasis of small cell lung cancer cells through the downregulation of the NF-kappa-B activity. *Mol Cancer Ther*. 11(12) : 2578-2587, 2012.
- 62) 西岡安彦: がん分子標的治療における一体化開発の現状と展望. *がん分子標的治療*. 10(4) : 267-275, 2012.
- 63) Furuse J, Ishii H, Okusaka T: The hepatobiliary and pancreatic oncology (HBPO) group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG): History and future direction. *Jpn J ClinOncol*. 43(1) : 2-7, 2013.
- 64) Kudo M, Tateishi R, Yamashita T, Ikeda M, Furuse J, Ikeda K, Kokudo N, Izumi N, Matsui O: Current status of hepatocellular carcinoma treatment in Japan: case study and discussion-voting system. *Clin Drug Investig*. 32(Suppl 2) : 37-51, 2012.
- 65) Kaneko S, Furuse J, Kudo M, Ikeda K, Honda M, Nakamoto Y, Onchi M, Shiota G, Yokosuka O, Sakaida I, Takehara T, Ueno Y, Hiroishi K, Nishiguchi S, Moriwaki H, Yamamoto K, Sata M, Obi S, Miyayama S, Imai Y: Guideline on the use of new anticancer drugs for the treatment of hepatocellular carcinoma 2010 update. *Hepatol Res*. 42(6) : 523-542, 2012.
- 66) Furuse J, Kasuga A, Takasu A, Kitamura H, Nagashima F: Role of chemotherapy in treatments for biliary tract cancer. *J HepatobiliaryPancreat Sci*. 19(4) : 337-41, 2012.
- 67) 市田隆文、奥坂拓志、金井文彦、古瀬純司: 肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的療法の近未来的展望. *肝・胆・膵*. 64(5) : 735-750, 2012.
- 68) 古瀬純司: 肝・胆・膵腫瘍の薬物療法-最近の進歩. 諸言、肝・胆・膵がんに対する薬物療法の動向. *腫瘍内科*. 9(6) : 635-640, 2012.
- 69) 古瀬純司: 進行肝癌治療の現状と今後. 肝癌に対する新規薬剤. *日本消化器病学会雑誌*. 109 (8) : 1355-1359, 2012.
- 70) 古瀬純司: 抗がん剤治療の最前線: 分子標的薬剤の使用による進歩(後篇). *各臓器別の最新治療と新薬の動向. 膵がん. 最新医学*. 67(9月増刊) : 2230-2237, 2012.
2. 学会発表
- 1) Koinuma N: The burden of cancer in Japan. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2012. Chicago, USA. April 3, 2012.
- 2) 濃沼信夫: 高額抗がん剤をどう使うか. 第112回日本外科学会. 幕張、千葉. 2012. 04.
- 3) Koinuma N, Ogata T: Can the mass screening of *Helicobacter Pylori* infection be acceptable socio-economically for the prevention of gastric cancer? 14th Biennial Society for Medical Decision Making European Meeting, Oslo, Norway, June 11, 2012.
- 4) Koinuma N: The estimated cost of cancer in Japan, 9th European Conference on Health Economics, Zurich, Switzerland, July 21, 2012.
- 5) Koinuma N, Ito M: The economic burden of cancer patients by clinical stage,

- patient copayment and length of hospital stay. 71st Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Sapporo, September 21, 2012.
- 6) Koinuma N: Economic benefit of Helicobacter pylori screening and eradication treatment for the prevention of gastric cancer. Frontiers in Cancer Prevention Research Conference, American Association for Cancer Research, Anaheim, California, USA. October 17, 2012.
 - 7) 濃沼信夫: 実態調査と国際比較にみる分子標的治療の患者アクセス. 第50回日本癌治療学会. 横浜. 2012. 10.
 - 8) Koinuma N: The influence of out-of-pocket expenses to treatment choices. 24th International Congress on Anti-cancer Treatment, Paris. February 6, 2013.
 - 9) 井上正広、高橋信、添田大司、下平秀樹、三浦康、渡辺みか、石岡千加史: 網羅的遺伝子発現による大腸癌の臨床像と分子生物学的特徴の解析. 第109回日本内科学会講演会. 京都. 2012. 04.
 - 10) 石岡千加史: 消化器がんの分子標的薬と最新治療. 市民公開講座 第16回日本がん分子標的治療学会学術集会. 北九州. 2012. 06.
 - 11) 下平秀樹、添田大司、蒲生真紀夫、安藤秀明、山口拓洋、渡辺みか、磯辺秀樹、須藤剛、加藤俊介、石岡千加史: オキサリプラチン、イリノテカン耐性大腸癌におけるEGFR関連遺伝子の変異とセツキシマブ+イリノテカンの治療効果、安全性. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 大阪. 2012. 07.
 - 12) 杉山俊輔、角道祐一、吉田こず恵、秋山聖子、下平秀樹、加藤俊介、石岡千加史: GISTに対する分子標的治療薬投与症例の検討. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 大阪. 2012. 07.
 - 13) 瀬谷裕貴子、秋山聖子、村山素子、神部眞理子、菅原美千恵、石井正、千田康徳、石岡千加史: 災害後のがん化学療法支援の検討 (厚生労働省平成23年度チーム医療実証事業活動報告). 第14回日本医療マネジメント. 佐世保. 2012. 10.
 - 14) 石岡千加史、添田大司、下平秀樹: 大腸がんにおけるキナーゼ阻害療法と薬剤耐性. 第8回トランスレーショナルリサーチワークショップ-キナーゼ阻害薬によるがん治療の革新-. 東京. 2013. 01.
 - 15) 植田健: 千葉県がんセンターにおける地域連携パスの取り組み (講演). 第53回埼玉県泌尿器科医会学術集会. 浦和市. 2012. 07.
 - 16) 齋藤允孝、吉田香保里、李芳菁、滑川剛史、宮坂杏子、今村有佑、小林将行、小丸淳、深沢賢、植田健: 根治的前立腺全摘除術クリティカルパスのバリエーション分析 (口演). 第97回千葉泌尿器科集談会. 千葉市. 2012. 06.
 - 17) 齋藤允孝、吉田香保里、李芳菁、滑川剛史、宮坂杏子、今村有佑、小林将行、小丸淳、深沢賢、植田健: 根治的前立腺全摘除術クリティカルパスのバリエーション分析. 第50回日本癌治療学会学術集会 (示説). 横浜市. 2012. 10.
 - 18) 植田健: がんになって感じたこと. 癌治療学会 イブニングセミナー. 第50回日本癌治療学会学術集会 (講演). 横浜市. 2012. 10.
 - 19) Ueda S, Hironaka S, Yasui H, Nishina T, Tsuda M, Tsumura T, Sugimoto N, Shimodaira H, Tokunaga S, Moriwaki, Esaki T, Okamoto I, Boku N, Hyodo I: Randomized phase III study of irinotecan (CPT-11) versus weekly paclitaxel (wPTX) for advanced gastric cancer (AGC) refractory to combination chemotherapy (CT) of fluoropyrimidine plus platinum (FP): WJOG4007 trial., 2012 ASCO Annual Meeting. Chicago. 2012. 06.
 - 20) Amano T, Shimada Y, Nishina T,

- Shinozaki K, Esaki T, Komatsu Y, Shimozuma K, Akita H, Ohashi Y, F.H. Hausheer: Prospective validation of patient neurotoxicity questionnaire (PNQ) for assessment of oxaliplatin neurotoxicity: CSP-HOR 16., vienna 2012 European Society for Medical Oncology. Vienna. 2012. 09.
- 21) 江崎泰斗、瀬戸貴司、平井文彦、在田修二、野崎要、牧山明資、米谷卓郎、藤本千夏、濱武基陽、武岡宏明、施曉瑾: 進行固形悪性腫瘍患者を対象とした AZD7762 の単独静脈内投与及び週 1 回標準量ゲムシタピンとの併用投与時の安全性、忍溶性及び薬物動態を検討する非盲検、用量漸増、第 I 相試験. 第 50 回日本癌治療学会学術集会. 横浜. 2012. 10.
- 22) Murayama Y, Koizumi N, Komatsu S, Shiozaki A, Kubota T, Ichikawa D, Fujiwara H, Okamoto K, Kokuba Y, Otsuji E: Fluorescence laparoscopic diagnosis of peritoneal disseminations using 5-aminolevulinic acid in advanced gastric cancer patients. 4th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry. Kyoto. 2012. 08.
- 23) 市川大輔、小松周平、岡本和真、塩崎敦、藤原斉、小西博貴、村山康利、栗生宜明、生駒久視、窪田健、中西正芳、落合登志哉、國場幸均、大辻英吾: Stage IV 胃癌に対する胃切除後の予後の検討. 第 10 回日本消化器外科学会大会. 神戸. 2012. 10.
- 24) 岡本直幸、片山佳代子、夏井佐代子、三上春夫: がん患者の医学的フォローは何年後まで必要か? 地域がん登録全国協議会. 第 21 回学術集会. 高知. 2012. 06.
- 25) 片山佳代子、岡本直幸: 神奈川県内における男性胃がん罹患の地域集積性の検討. 地域がん登録全国協議会. 第 21 回学術集会. 高知. 2012. 06.
- 26) Katayama K, Suketomo H, Inaba Y, Okamoto N: Consideration of Regional Clustering of Breast Cancer in Kanagawa Prefecture. -Application of Cancer Registries Data using GIS-. UICC World Cancer CONGRESS. Montréal, CANADA. 2012. 08.
- 27) 片山佳代子、岡本直幸: Consideration of Regional Clustering of Breast and Stomach Cancer in Kanagawa Prefecture. 第 71 回日本癌学会学術総会. 札幌. 2012. 09.
- 28) 片山佳代子、岡本直幸: キャンサーサバイバー支援システムの構築に関する研究. 第 71 回日本公衆衛生学会学術総会. 山口. 2012. 10.
- 29) 片山佳代子、高山智子、小川朝生、岡本直幸: キャンサーサバイバー支援システムの構築に関する研究-がん電話相談と患者困りごと調査より-. 第 77 回日本民族衛生学会総会. 東京. 2012. 11.
- 30) Tanimura A, Hamanaka Y, Fujita N, Doi Y, Ishibashi T, Sudo T, Matsui K, Ichii M, Saitoh N, Satoh Y, Ezoe S, Yokota T, Oritani K, Shibayama H, Kanakura Y: An anti-apoptotic molecule, Anamorsin, is essential for erythropoiesis through the regulation of cellular labile iron pool. The American Society of Hematology 54th Annual Meeting. Atlanta, USA. 2012. 12.
- 31) Oritani K, Sekine Y, Muromoto R, Fujita N, Matsuda T, Kanakura Y: Involvement of STAP-2 in BCR-ABL-mediated signals for CML development. 第 3 回日本血液学会 (JSH) 国際シンポジウム. 埼玉. 2012. 05.
- 32) 一井倫子、佐多弘、福島健太郎、羽渕洋子、江副幸子、柴山浩彦、前田哲生、織谷健司、金倉讓: 多発性骨髄腫の予後予測解析ツールとしてのマルチカラー・フローサイトメトリーの可能性. 第 22 回日本サイトメトリー学会学術集会. 大阪. 2012. 06.
- 33) 松井崇浩、衣笠由美、田原秀一、織谷健司、金倉讓、高倉伸幸: 癌細胞の PSF1 発現レベルは薬剤耐性能および腫瘍再燃に関連

- する. 第 71 回日本癌学会学術総会. 北海道. 2012. 09.
- 34) 木田亨、小杉智、菅原浩之、中川雅史、吉田均、信岡亮、田所誠司、前田哲生、片桐修一、金倉謙: ボルテゾミブを長期投与された再発・難治性多発性骨髄腫における開始時用法・用量調整と転帰の後方視的検討. 第 74 回日本血液学会学術集会. 京都. 2012.
- 35) Fujita K, Sasaki T, Sunakawa Y, Ishida H, Yamashita K, Miwa K, Saji S, Kato Y, Sasaki Y: Concomitant polypharmacy is associated with irinotecan-induced adverse drug reactions in patients with cancer. The 9th Japanese Society of Medical Oncology annual meeting. Osaka. 2012. 07.
- 36) Fujita K, Sugiura T, Nakamichi N, Akiyama Y, Sasaki Y, Kato Y: Partial inhibition by uremic toxins of hepatic uptake of an active metabolites SN-38 of irinotecan in humans. 71st Japan Cancer Association meeting. Sapporo. 2012. 09.
- 37) Fujita K, Sasaki T, Sunakawa Y, Ishida H, Yamashita K, Miwa K, Saji S, Kato Y, Sasaki Y: Concomitant polypharmacy is associated with irinotecan-induced adverse drug reactions in patients with cancer. 27th Japanese Society for the Study of Xenobiotics annual meeting. Tokyo. 2012. 11.
- 38) Sugiura T, Fujita K, Okumura H, Umeda S, Nakamichi N, Sasaki Y, Yukio Kato: Involvement of OATP and inhibition by uremic toxins in hepatic uptake of an anticancer agent SN-38 in humans. 27th Japanese Society for the Study of Xenobiotics annual meeting. Tokyo. 2012. 11.
- 39) 山崎一郎、執印太郎、他: 前立腺癌密封小線源永久挿入治療後の下部尿路症状の検討. 第 100 回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2012. 04.
- 40) 福原秀雄、執印太郎、他: 高知泌尿器科における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験. 第 100 回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2012. 04.
- 41) 島本力、執印太郎、他: cT3 前立腺癌に対する外照射併用 Ir-192 高線量率組織内照射療法の治療成績. 第 100 回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2012. 04.
- 42) Takei H, Kubo K, Matsumoto H, Hayashi Y, Kurozumi S, Tsuboi M, Saito T, Hamahata A, Inoue K, Nagai S, Oba H, Kurosumi M: Skin sparing mastectomy or nipple areolar complex (NAC) saving mastectomy. Controversies in Breast Cancer Surgery (SP06-1). 10th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society. Seoul, Korea. 2012. 06.
- 43) Kurozumi S, Takei H, Inoue K, Matsumoto H, Hayashi Y, Ninomiya J, Kubo K, Tsuboi M, Nagai S, Ookubo F, Oba H, Kurosumi M, Horiguchi J, Takeyoshi I: Significance of examining biomarkers of residual tumors after neoadjuvant chemotherapy using trastuzumab in combination with anthracycline and taxane in patients with primary HER2-positive breast cancer. The 35th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, USA. 2012. 12.
- 44) Yamauchi H, Nakagawa C, Yamashige S, Takei H, Yagata H, Yoshida A, Hayashi N, Hornberger J, Yu T, Chien R, Chao C, Yoshizawa C, Nakamura S: Societal economics of the 21-gene Recurrence Score in estrogen receptor-positive early-stage breast cancer in Japan. The 35th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, USA. 2012. 12.
- 45) Imoto S, Aikou T, Takei H, Wada N, Aihara T, Inaba M, Motomura K, Masuda N, Nagashima T, Jinno H, Miura D, Saito M, Morita S, Sakamoto J, Kitajima M:

- Prognosis of early breast cancer patients treated with sentinel node biopsy : A prospective study from the Japanese society for sentinel node navigation surgery. 2012 ASCO Annual Meeting. Chicago, USA. 2012. 06.
- 46) 武井寛幸 : Heterogeneity から考えるエストロゲンレセプター陽性乳癌の治療戦略. モーニングセミナー 3. 第 20 回日本乳癌学会学術総会. 熊本. 2012. 06.
- 47) 山内英子、武井寛幸、中川千鶴子、矢形寛、吉田敦、林直輝、鈴木高祐、中村清吾 : 21 遺伝子アッセイでの治療方針決定における患者側葛藤スコアおよび社会的経済効果の検討. 第 20 回日本乳癌学会学術総会. 熊本. 2012. 06.
- 48) Kihara R, Naoe T, et al. : Prognosis of AML patients registered to JALSG AML201 study according to the ELN genetic risk classification. The American Society of Hematology 54th Annual Meeting. Atlanta, USA. 2012. 12.
- 49) Murata M, Naoe T, et al. : Leukaemia escape from HLA-specific T-lymphocyte pressure in a recipient of HLA one locus-mismatched BMT. The American Society of Hematology 54th Annual Meeting. Atlanta, USA. 2012. 12.
- 50) Nishida T, Naoe T, et al. : Correlation of IL-6 with exhausted CMV-specific T cells after allogeneic stem cell transplantation. The American Society of Hematology 54th Annual Meeting. Atlanta, USA. 2012. 12.
- 51) Sakura T, Naoe T, et al. : Outcome of Pediatric-Type Therapy for Philadelphia Chromosome-Negative Acute Lymphoblastic Leukemia (ALL) in Adolescents and Young Adults (AYA) : A Study by the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG ALL202-U study). The American Society of Hematology 54th Annual Meeting. Atlanta, USA. 2012. 12.
- 52) Tomita A, Naoe T, et al. : Rituximab Sensitivity to De Novo DLBCL Cells Showing the Specific Phenotype of CD20 Protein Immunohistochemistry- Positive / Flow Cytometry- Negative : Analyses of Its Clinical Significances and the Molecular Mechanisms. The American Society of Hematology 54th Annual Meeting. Atlanta, USA. 2012. 12.
- 53) Kuramoto T, Nishioka Y, et al. : Dll4-Fc, an inhibitor of Dll4-notch signaling, suppresses liver metastasis of small cell lung cancer cells through down-regulation of NF-kappa-B activity. AACR Annual Meeting 2012. USA. 2012. 04.
- 54) Goto H, Nishioka Y, et al. : Surfactant protein A suppresses progression of human lung adenocarcinoma in an experimental lung metastasis model. ATS 2012 International Conference. USA. 2012. 05.
- 55) Nishioka Y, et al. : Antitumor effects of anti-podoplanin antibody NZ-1 against malignant mesothelioma. 14th International Biennial Congress of the Metastasis Research Society. Australia. 2012. 09.
- 56) Hanibuchi M, Nishioka Y, et al. : Eradication of experimental brain metastases of human non-small cell lung cancer by macitentan, a dual antagonist of the endothelin A and B receptor, combined with paclitaxel. Markers in Cancer 2012 : A Joint Meeting by ASCO, EORTC and NCI. USA. 2012. 10.
- 57) 豊田優子、西岡安彦、他 : Patient-Reported-Outcome (PRO) による肺癌薬物療法の有効性の検討. 第 53 回日本肺癌学会総会. 岡山. 2012. 11.
- 58) 西岡安彦 : がんと免疫: 治療法としての現状と展望. 市民公開講座「ベッドサイドから生まれる未来のがん治療研究 - チーム徳島大学の取り組み -」. 徳島.

2012. 11.
- 59) 西岡安彦 : 難治性呼吸器疾患の分子病態解明と新規治療薬法の開発. 第 246 回徳島医学会学術集会. 徳島. 2013. 02.
- 60) Bronowicki JP, Ye SL, Kudo M, Jorge Marrero J, Dagher L, Furuse J, Geschwind JF, de Guevara LL, Papandreou C, Sanyal AJ, Takayama T, Yoon SK, Nakajima K, Lencioni R: GIDEON (global investigation of therapeutic decisions in hepatocellular carcinoma and of its treatment with sorafenib) second interim analysis : Clinical findings in Child-Pugh B score subgroups. Annual meeting of the European Association for the study of the liver. Barcelona. 2012. 04.
- 61) Machida N, Yamaguchi T, Kasuga A, Takahashi H, Sudo K, Nishina T, Tobimatsu K, Ishido K, Furuse J, Boku N: Multicenter retrospective analysis of systemic chemotherapy for advanced poorly differentiated neuroendocrine carcinoma of the digestive system. 2012 ASCO Annual Meeting. J Clin Oncol 30, 2012 (suppl; abstr 4046), Chicago. 2012. 06.
- 62) 古瀬純司 : ワークショップ 13. 肝細胞癌に対する分子標的薬開発の基礎から臨床. まとめと解説. 第 48 回肝臓学会総会. 金沢市. 2012. 06.
- 63) Ikeda M, Okusaka T, Mizusawa J, Takashima A, Morizane C, Ueno M, Hamamoto Y, Ishii H, Hara H, Fukutomi A, Furukawa M, Nagase M, Yamaguchi T, Boku N, Furuse J : Randomized phase II trial of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus S-1 in advanced biliary tract cancer: Results of the Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0805). 第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会. International session 2. 大阪市. 2012. 07.
- 64) Furuse J : Hepatocellular carcinoma: Present treatment strategy in Japan. ESMO / JSMO Joint Symposium. ESMO 2012. Abstr #279. Vienna. 2012. 10.
- 65) Sunagozaka H, Kaneko S, K Ikeda K, Furuse J, Kudo M, The Study Group on New Liver Cancer Therapies (NLCT) in Japan: Sorafenib Deteriorate Liver Function in Advanced Hepatocellular Carcinoma Patients : A Multi-center Retrospective Study in Japan. Abstr#571. Boston. 2012. 11.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし

Ⅱ. 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

がん患者の経済的負担に関する研究

研究分担者 濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨

【目的】高額で長期にわたる治療が必要な場合の患者負担の実態を把握し、負担のあり方とその軽減に向けた合理的な対策を検討する。

【方法】全国のがん医療の中核的施設 39 施設において、がん患者を対象に自記式調査を実施した。また、患者の同意を得て担当医から診療情報の提供を受け、患者（負担状況）と医師（診療情報）のデータリンケージにより解析を行った。

【結果】回答数は患者 3,028 件（回答率 61.6%）、医師 4,087 件（同 83.1%）である。医師調査（臨床経過）とのデータリンケージを行った患者 1,933 人の内訳は、男 43%、女 57%、平均年齢 63.8 歳、再発 12%である。初回診断時からの平均経過期間は 30.7 ヶ月、病期は stage I 31%、II 27%、III 15%、IV 23%などである。医療保険は国保 50%、組合健保 21%、後期高齢者医療制度 17%、協会けんぽ 10%などであり、自己負担割合は 3 割 69%、1 割 30%などである。回答者の 62%は経済的な困りごとがあるとし、63%が高額療養費の受領委任払い制度を利用している。病期別に平均自己負担（間接費用を含む）年額をみると、stage I 69.3 万円、II 67.2 万円、III 90.5 万円、IV 114.2 万円である。診断時、就労していた者は 51%であり、がんで仕事をやめたと思われる者の割合は 32%で、これを病期別にみると stage I 24%、II 26%、III 34%、IV 41%である。

【結論】患者の経済的負担は、がんの部位、病期などで大きく異なっており、それぞれの状況に応じた負担の軽減策、就労支援策を講じることが重要と考えられる。

A. 研究目的

患者中心医療の要請、技術革新の進展、医療資源の制約などから、臨床的とともに経済的根拠に基づくがん医療を実践することが重要となっている。また、新しい「がん対策推進基本計画」では、療養する患者が安心して働き暮らせる社会の構築が謳われている。本研究では、高額で長期にわたる治療が必要な場合の患者負担の実態を把握し、負担のあり方とその軽減に向けた合理的な対策を検討する。

B. 研究方法

大学病院、がんセンター等全国の 39 施設で、がん患者を対象に自記式調査を実施した。また、患者の同意を得て、担当医から診療情報の提供を受け、患者（負担状況）と医師（診療情報）

のデータリンケージにより解析を行った。

（倫理面への配慮）

患者を対象にした調査は東北大学、および各施設の倫理委員会の承認を得て実施した。患者回答は無記名で郵送とし、連結可能匿名化された診療情報は、患者の同意を得て担当医から提供を受けた。

C. 研究結果

調査の回答数は患者 3,028 件（回答率 61.6%）、医師 4,087 件（同 83.1%）である。データリンケージを行った患者 1,933 人の内訳は、男 43%、女 57%、平均年齢 64 歳、再発 12%である。部位は乳房 37%、肺 14%、前立腺 12%、大腸 6%、造血器 5%など、初回診断時からの平均経過期間は 30.7 ヶ月、病期は stage I 31%、II 27%、III 15%、IV 23%